

発刊にあたって



美唄市長 高橋 幹夫

平成 27 年に戦後 70 年を迎えたことを受け、美唄市では、市民の皆さんの戦時を中心とした貴重な体験を次の世代に語り継ぐため、市民文集をつくりました。

美唄市では、広島、長崎への原爆投下による未曾有の犠牲者を出した我が国の経験を踏まえ、人類の生存の脅威である核兵器の廃絶と世界の恒久平和の確立を強く願い、昭和 60 年に「核兵器廃絶平和都市宣言」を行いました。それ以来、平和への願いを市内外の人々に伝えるため、写真展やポスター展、コンサート、図書館での平和図書コーナーの設置など、平和を祈念する行事を続けてまいりました。

また、平成 19 年に制定した「美唄市まちづくり基本条例」では、まちづくりの基本理念の一つに「平和の希求」を掲げて、市民の皆さんとともに、平和の大切さをここに刻みながら、まちづくりを進めているところです。

現在の国際情勢を見ると、依然として、不安定な要素が存在しており、わたしたちは、70 年続けることができた我が国の平和の意味を、改めて深く考える必要があると感じています。

実際に戦争の時代を体験した人は、本市においても、年々少なくなってきており、その記憶をとどめることが難しくなっています。しかし、どんなに時が過ぎようとも、戦争の悲惨さや、愛する人を失う悲しみを決して忘れてはならないと思います。

市民の皆さんの貴重な体験を次の世代に伝え、平和の尊さを改めて考えるため、この市民文集をウェブ版として発信できることは、「平和の希求」という市民の総意を伝える大きな一歩になるものと考えています。

美唄市では、平成 7 年に『語りつぐ戦争のころ』第 1 集を刊行しましたが、この続きとしての第 2 集の発刊にあたり、寄稿してくださった皆さん、取材させていただいた皆さん、ご協力をいただいた市郷土史料館協力員の皆さんに、この場を借りて心からお礼を申し上げます。

平成 28 年 3 月